

群 教 セ	G09 - 02
	平20.240集

まとまりのある英文で 自分の意見や考えを書く能力の育成

— 中学校でイメージマップと学習支援シートの活用を通して —

長期研修Ⅱ 研修員 細谷 裕之

《研究の概要》

本研究は、中学校英語科における「書くこと」の指導において、まとまりのある英文で意見文が書けるようになることを目指したものである。具体的には、イメージマップで意見文の理由や根拠となる考えを引き出し、広げる。そして、学習支援シートを活用して英語の文章構成に気付いたり、既習表現を用いて英語に直したり、相手に伝えることを意識して書き直す活動を行い、英語で書く力を段階的に高められるようにした。

キーワード 【英語-中 意見文 イメージマップ 学習支援シート 書くこと】

I 主題設定の理由

文部科学省が平成20年3月に告示した新学習指導要領によると、中学校外国語の主な改善事項として、コミュニケーション能力を「聞くこと」「話すこと」の音声面だけに焦点を当てることなく、「読むこと」「書くこと」の文字言語を含めて4領域を総合的にとらえることが示されている。英語教育においては、英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、4領域を統合した言語活動を通して、実際に英語を活用できる能力の育成が求められている。平成19年に中教審から出された審議のまとめによると、4領域の中で「書くこと」を苦手とする生徒が多いという実態が報告された。新学習指導要領には「書くこと」の指導内容として「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文とのつながりなどに注意して文章を書くこと」という項目が新たに追加されている。

協力校において、平成20年2月に実施したCRT学力検査の結果によれば「聞くこと」「話すこと」の得点率は8割であるが、「読むこと」は7割、「書くこと」は6割にとどまっており、『伝えたい内容を正しく書く』という領域の到達度が低かった。

その原因を探ると、次のような実態があった。授業の展開が「聞くこと」「話すこと」の活動が中心となり、書いて自己を表現する活動が少なかった。1文単位では書いても、それぞれの文をどのようにつなげたらよいか分からない。生徒に英語の文章構成についての十分な知識がなかつ

た。また、英文を書く時、日本語をそのまま英語に直しようとするあまり既習の表現がなかなか活用できていない。さらに、読み手に伝える視点がなく、自分本位な英文になっていた。

そこで、本研究では、まとまりのある英文を書く準備段階として、イメージマップを取り入れる。そして、自分の意見や考えを段階的に英語で表現できるよう文章構成手順シート、日本語変換シート、英文チェックリストなどの学習支援シートを作成した。英語を聞くこと、話すことの活動に加えて、意見や考えが含まれた英語を書く言語活動を充実させることは、英語で表現できる実践的な運用能力の幅を広げる上でも有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学3年生が、英語で意見文を書く活動において、イメージマップと学習支援シートを活用することにより、まとまりのある英文で自分の意見や考えが書けるようになることを授業実践を通して検証する。

III 研究の仮説

1 つかむ過程①で、イメージマップを使ったグループ活動を行うことにより、生徒は与えられたテーマに対して自分の考えを引き出し、広げることができるであろう。

2 つかむ過程②で、英語の意見文の論理展開で

ある三段構成例を示すことにより、生徒はまとまりのある英文の構成を理解することができるであろう。

3 追究する過程で、与えられたテーマについて日本語で書いた意見や考えを日本語変換シートを用いて吟味することにより、生徒は既習の表現を使って英語に直すことができるであろう。

4 広げる過程で、英文チェックリストを用いることにより、生徒は追究する過程で下書きをした英文を読み手の視点で書き直すことができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 基本的な考え方

(1) まとまりのある英文で自分の意見や考えが書ける生徒とは

まとまりのある英文とは、自分の意見や考えを適切な文章構成で正しい文法規則に従って書かれた内容的に一貫性のある文章である。また、読み手を意識して書かれており、表1に示す3つの条件を満たす5～10文からなる文章とする。

表1 「まとまりのある英文」

文章構成	最初に自分の意見や考えを述べる「主題文」が明示され、つぎに、その主張の根拠や理由を具体的に述べる「支持文」、最後に主題文を言い換えてまとめた「結論文」からなる三段構成になっている。
文法	単語のつづりを含む文法規則に従った文章構造で書かれている。
内容	支持文の内容がつなぎ言葉等を使って項目立てで書かれており、読み手に伝わるように主張の根拠を具体的に示している。

したがって、本研究において、「まとまりのある英文で自分の意見や考えが書ける生徒」とは、あるテーマについてまず意見や考えを書き、次にそれを支持する根拠や理由を具体的に様々な視点から述べた文章を、文法規則に従った文章構造で書くことのできる生徒とする。

(2) 英語の意見文の文章構成とは

大井恭子准教授（千葉大学）は、英語と日本語の文章の違いを以下のように述べている。「英語はまずいちばん言いたいことを冒頭で提示し、後から理由付けや具体例を補足していくという論理展開をしており、自分の主張は最後まで変えない。

一方、日本語の場合は、周辺から個々の状況に応じた理由や根拠を提示して、徐々に書き手の言いたい核心部分に持って行こうとすることが多い。」

本研究では、図1に示すような「主題文」、「支持文」、「結論文」から成る文章を1つの意見文の型として提案した。三段構成での書き方を理解させ、つなぎ言葉を使うことにより、まとまりのある英文で自分の意見や考えが書けるようになることを目指すものである。

1 主題文

I like summer the best. There are three reasons.

2 支持文

First, we have summer vacation. We can do many things in our free time. For example, reading books, watching DVDs, playing sports.

Second, I can swim in the sea. I go to the beach with my family every summer.

Third, the concert of my favorite singer is held in August. I'm a big fan of Southern All Stars. I have many CDs.

3 結論文

So I like summer the best.

太字が
つなぎ
言葉

図1 まとまりのある英文の例

2 研究の内容

(1) イメージマップで考えを出す活動について

イメージマップとは、自分の頭の中にあるイメージを文字や図に表すことであり、ブレイクストーミングやウェビングともいう。

1回目の活動は、つかむ過程①において事前調査と同じテーマで意見を出し合う。2回目の活動は追究する過程において提示した4つのテーマから1つを選び、同じテーマを選んだ生徒同士で意見を出し合う。まとまりのある英文で意見や考えを書くためには自分の主張だけでなく、その理由や具体的経験など、自分の考えをしっかりと持つことが大切である。生徒はイメージマップ活動を通して自分の考えを引き出すと共に、他の生徒の新たな考えに気付いたり、整理したりすることで自分の考えを深めることができると思われる。

(2) 学習支援シートの活用について

まとまりのある英文で自分の意見や考えが段階的に書けるように学習支援シートを作成した。それぞれの学習支援シートの概要を以下に示す。

① 文章構成手順シート

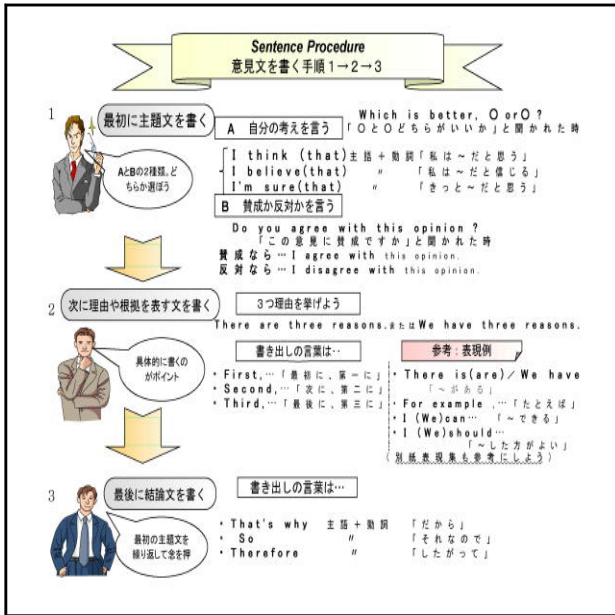


図2 文章構成手順シート(資料6)

つかむ過程②において、英語の意見文には文章の論理展開に1つの型があることを知らせる。図2に示したシートを配付し、**主題文**、**支持文**、**結論文**からなる三段構成の英文の書き方を具体的に示すことで、生徒に書き方の手順を理解させる。

② 日本語変換シート

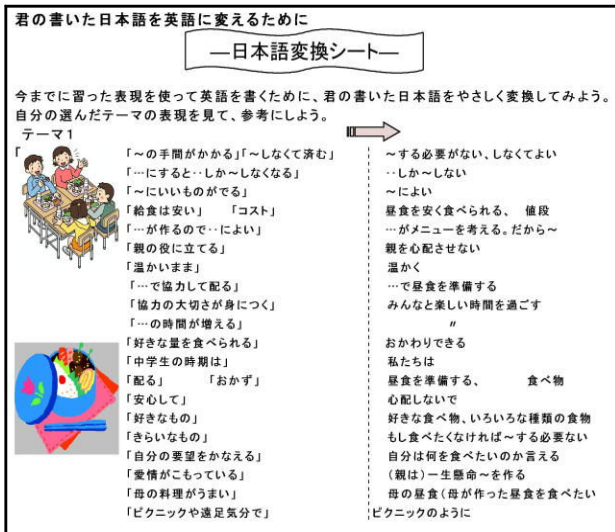


図3 日本語変換シート(資料12)

これまで手紙文や紹介文などの英語を書く活動において、生徒は「書くこと」に対してコミュニケーションの手段であるという視点がなく、未習の単語や表現を多用し、読み手に伝わりにくい自分本位な英文を書いていた。そこで、読み手を意識して、既習の単語や表現を使って英文が書けるよう図3に示した日本語変換シート(資料12)を

作成した。このシートの作成にあたっては、前時の授業で生徒が書いた日本語を参考にした。英語に直しにくいところを抜き出し、既習の表現を用いて英語に直せるような日本語の表現に変えた。そして、それをつかむ過程②の意見文を書くテーマ別にまとめたものである。

追究する過程において、日本語で書いた**支持文**を英語に直す時に、生徒はこのシートを参考に自分の書いた文を振り返り、修正する。例えば、「弁当は作る手間がかかる」という日本語に対し、既習表現のdon't have to ~が使えるように「弁当を作らなくてよい」という日本語に直させる。つまり、英語に直す前の段階で、日本語をそのまま直訳するのではなく、日本語自体を吟味してから英語に直すようにする。そして、教師は生徒の変換した日本語が既習の表現を使って英語にしやすくなっているかを点検する。このように日本語表現シートを活用することで、読み手に伝わる英文を書くことができると思う。

③ 英文チェックリスト

Check List	
文章構成面	主題文が書いてあるか
	理由や根拠を表す文は3文あるか
	理由や根拠を表す文はそれぞれつなぎ言葉(First, Second, Third)を使っているか
	理由や根拠を表す文は同じ動詞を多用していないか(文が単調になっていないか) (例: 3つの文にすべて like が使っているなど)
	結論文はあるか
文法面	結論文はつなぎ言葉(So など)を使っているか
	それぞれの文に主語はあるか。使っていないとしたらどこか。
	代名詞を的確に使い同じ名詞を多用していないか
内容面	単語は正しいつづりになっているか。間違いに気づいたら直してあげよう。(例: 2行目 lunch → lunch)
	動詞の形は適切か。間違いに気づいたら直してあげよう。(例: 2行目 go → went)
内容面	1つめの理由を読んでもっと知りたいことは何ですか。書き手がもう一文付け加えられるように記入しよう
内容面	2つめの理由を読んでもっと知りたいことは何ですか。書き手がもう一文付け加えられるように記入しよう

図4 英文チェックリスト(資料16)

これまでの書く指導においては、生徒の個人差が大きいことに加え、書いた文を訂正することに時間がかかり、書いた文章を用いてのコミュニケーション活動にまで高められない現実があった。

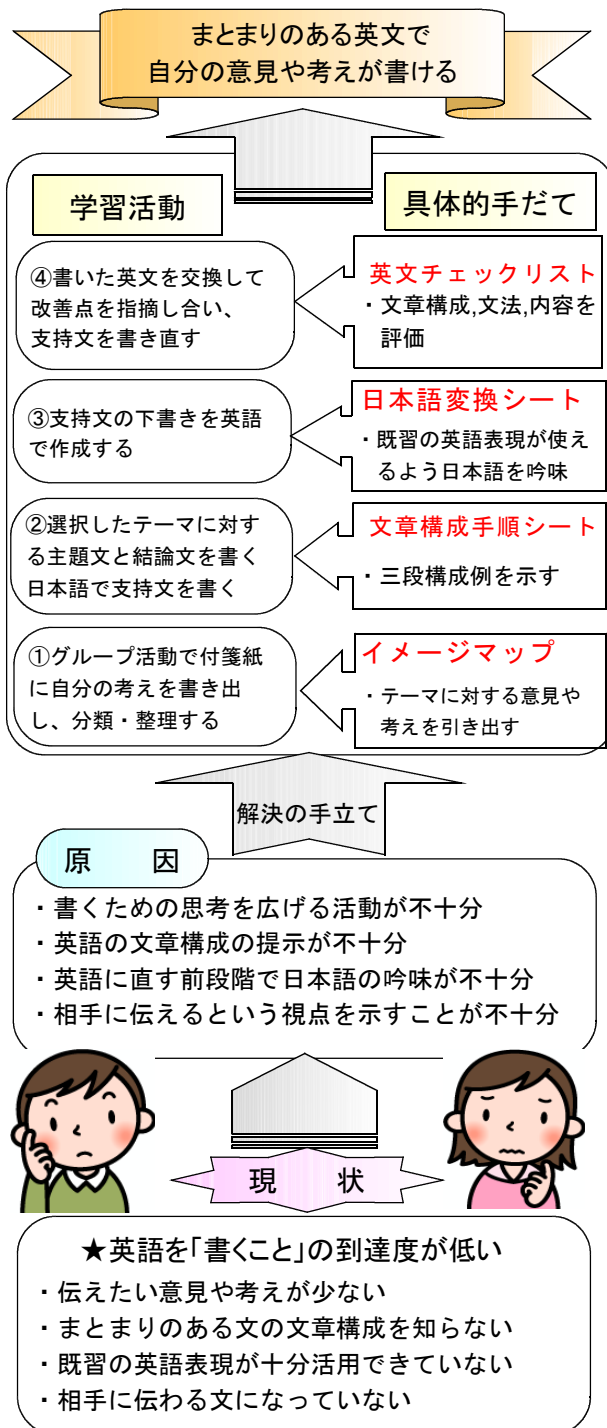
そこで、図4に示した英文チェックリストを作成した。このシートは、生徒が自分たちの英文を加除訂正できるよう、文章構成、文法、内容の各項目でチェックできるようにしたものである。

広げる過程において、生徒はこのシートを基にお互いに書いた英文を交換しながら評価し合う。具体的には、生徒は、下書きの英文が相手に正し

く伝わるかどうかという視点で書かれているか、また内容的に具体性があるかなどの観点で、評価し合う。そして、このシートを基にした友達からの指摘によって、文章構成の間違いや内容的な不十分さに気付かせる。また、他の生徒の文を見ることによって、文章構成や文法、内容についても理解が深まり、自分自身の英文をさらに見直す機会になる。また、学習の進んだ生徒にとっては、具体的な理由や根拠を表す支持文をさらに増やすなど発展的な学習にもつながるであろう。

(3) 研究構想図

本研究の概要は以下の通りである。



3 研究の方法

(1) 授業実践計画

対 象	中学校第3学年
期 間	平成20年10月8日(水)～16日(木) 18時間(6時間×3クラス)
題材名	「英語で意見文を書いてみよう」 (自作教材)
授業者	長期研修員 細谷 裕之

(2) 抽出生徒

生 徒 A	自分の考えを引き出す方法を知らせ、文章構成を理解させることにより、自分の意見や考えを書いて表現する力を身に付けさせたい。
生 徒 B	学習支援シートで自分の書いた英文を振り返らせ、自分の意見や考えを書いて表現する力を高めさせたい。
生 徒 C	学習支援シートで自分の書いた英文が相手に正確に伝わるか振り返らせ、自分の意見や考えを書いて表現する力をさらに伸ばしたい。

(3) 検証計画


		検証の観点と方法
仮説1	観 点	つかむ過程①で、イメージマップを使ったグループ活動を行うことは、生徒が与えられたテーマに対して自分の考えを引き出し、広げることに有効であったか。
	方 法	ワークシート1、振り返りシート1 グループ活動の観察
仮説2	観 点	つかむ過程②で、英語の意見文の論理展開である三段構成例を示すことは、生徒がまとまりのある英文の構成を理解するのに有効であったか。
	方 法	ワークシート2、振り返りシート2
仮説3	観 点	追究する過程で、与えられたテーマについて日本語で書いた意見や考えを日本語変換シートを用いて吟味することは、生徒が既習の表現を使って英語に直すことに有効であったか。
	方 法	ワークシート3、4、振り返りシート3、4
仮説4	観 点	広げる過程で、英文チェックリストを用いることは、生徒が追究する過程で下書きをした英文を、読み手の視点で書き直すことに有効であったか。
	方 法	ワークシート4～6、英文チェックリスト 振り返りシート5、6

V 研究の展開

1 題材の目標及び評価規準

目標	(1) 自分の意見や考えを相手に伝わるように積極的に書こうとする。 (2) 既習表現を駆使しながら自分の意見や考えを書くことにより伝えることができる。 (3) 英語の文章構造を理解し、適切な語句や文を使い分けすることができる。		
評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	言語や文化についての知識・理解
	(言語活動への取り組み) 間違えることを恐れず自分の考えを書いたり、意欲的に書き直そうとする。 (コミュニケーションの継続) 表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続ける。	(正確な筆記) 書こうとすることを読み手に正確に伝えられる。 (適切な筆記) 文のつながりや構成を考えた文章を書ける。	(言語についての知識) 文章構造についての知識があり、語句や文の使い分けが分かる。 (文化についての理解) 自分と友達のものの見方や考え方の違いについて理解している。

2 指導と評価の計画(全6時間) 抜粋 ※白抜き文字は研究の手だてを表す

過程	学習内容	◎指導上の留意点及び学習活動への支援	○具体的評価規準
過程①	○事前調査と同じテーマでイメージマップ活動を行う。 ・自分が選んだ意見(好きな季節)に対する理由を付箋紙に書き出す。 ○考えを分類・整理する。 ・分類・整理した考えを3つ選び、グループで理由を表す文を日本語で3つ作る。	◎指導上の留意点及び学習活動への支援 ■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて 事前調査の問題：次の質問に対して、理由を含めてあなたの考えを英語で書いてください。文はいくつ書いてもかまいません。  Which season do you like the best? 「あなたはどの季節が一番好きですか」 ◎付箋紙を使って思いつく理由を5つ出すように伝える。グループで行うことにより、仲間の考えを参考に思考を広げる。 ◎考えを自由に出させるために日本語で意見を書かせる。 ■机間指導をしながら、よい考えが出せるようヒントを与える。 ◎理由を表す文を日本語で3つに絞るように指示し、自分のグループの主張を裏付けるよう取捨選択させる。	○具体的評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」 ○イメージマップを使った活動で、自分の考えを付箋紙に書くことができる。 A 自分の考えを5つ書くことができる。 B 自分の考えを4つまたは3つ書くことができる。 ○グループで考えを分類・整理して理由を表す文を日本語で作ることができる。 A 3文書くことができる。 B 2文書くことができる。
過程②	○英語の意見文の文章構成を理解する。 ・適切な文章構成になるよう文を並べ替える。 ・文章を並べ替える時にどんなことに注意したか発表する。 4つのテーマから1つ選ぶ 1 中学生にとって昼食は弁当と給食、どちらがよいか。 2 「小学生に携帯電話を持ってもよい」この意見に賛成か反対か? 3 映画を見るなら家と映画館、どちらがよいか。 4 「若者が都会に住んだほうがよい」この意見に賛成か反対か? ○各自が自分のテーマを決め、最初に主題文を英語で書く。 ・与えられた4つのテーマから1つを選択し、(二者択一の)どちらの立場を取るか決める。 ○結論文を英語で書く。	◎各グループにセンテンスカード(英文が1文ずつ書かれたカード)をそれぞれ5枚配り、意味が通るように文章を組み立てさせる。 ■つなぎ言葉の意味を示し、文の順序を考えさせる。 ◎黒板にセンテンスカード(掲示用)を示しながら、意見文の書き方が主題文、支持文、結論文からなる三段構成であることを説明する。 ◎文章構成手順シート(資料6)を手がかりに主題文の書き方は選んだテーマにより2通りの書き方があることに留意させる。 ■主題文が英語で書けない生徒には文章構成手順シートに示された型や板書した既習表現を個別に説明し、英語で書けるよう支援する。 ◎接続詞を使って結論文(文章の最後に主題文を繰り返す文)を英語で書かせる。	○英語の意見文の構成に気付き、理解している。 A 提示された英文の内容を理解しながら主題文、支持文、結論文からなる三段構成が理解できる。 B 提示された英文のつなぎ言葉を手がかりに主題文、支持文、結論文からなる三段構成が理解できる。 ○自分が選んだテーマについて主題文と結論文を書くことができる。 A 文章構成手順シートの主題文、結論文の書き方を活用し英文で書くことができる。 B 文章構成手順シートの主題文、結論文の書き方を活用し、日本語混じりの英文で書くことができる。
追究	○支持文を英語に直しやすい日本語にするという視点で日本語を書き直す。 ・日本語変換シートを参考にする。 ・書き直した日本語の支持文を教師に見せる。	◎日本語で書いた支持文の難しい言葉や回りくどい文を日本語変換シート(資料12)を基に、既習の英語表現が使える日本語に書き直させる。 ■机間指導で日本語変換シートをうまく活用できない生徒には個別指導を行う。	○日本語で書いた支持文を日本語変換シートを基に書き直すことができる。 A 既習表現の英語を使い、具体例を挙げながら意見や考えを表現した文になっている。 B 既習表現の英語を使って意見や考えを表現した文になっている。

過程次	学習内容	◎指導上の留意点及び学習活動への支援 ■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて	○具体的評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」
4	○書き直した日本語の支持文を英語に直して書く。	◎学習の進んでいる生徒は、支持文の内容を具体的にするためにさらに文を補足するよう伝える。 ◎書くこともコミュニケーションの手段であることを説明し、自分の書いた英文が読み手に分かるためには未習の単語や表現を多用しないことが大切であることを伝える。 ■表現シートや単語シートを参考にさせる。	○書き直した日本語の支持文を表現シートや単語シートを基に英語に直して書くことができる。 A 既習表現を用いて具体的な内容を含んだ支持文が3文書けている。 B 既習表現を用いて支持文が3文書けている。
5	○書いた英文が自分の意見や考えを正しく伝えているかという視点で学び合い活動を行う。 ・ワークシート4を交換し、お互いに原稿を読み合って改善点を見つけ、英文チェックリストに書き出す。 ○指摘された改善点を基に自分の書いた英文を書き直す。 ・改善点をワークシート5に書き出してから英文を書く。	◎同じテーマを選んだグループでお互いに自分の書いた意見文(ワークシート4)を交換させる。 ◎英文チェックリストの点検項目にある文章構成面・文法面・内容面のそれぞれについて、改善点を記述欄に具体的に書くように伝える。 ■学習が遅れがちな生徒は文章構成面でのつなぎ言葉の有無や表現集を手がかりに表面的な指摘でも可とする。 ◎自分の書いた英文を加除訂正させることで支持文の内容を深め、相手に伝えるという意識を持たせる。 ■学習が遅れがちな生徒には、前時に配布した表現シートや単語シートを手がかりに伝えたい内容が書けるよう援助する。	○英文チェックリストの項目に従って他の生徒の書いた英文に対して、改善点を指摘することができる。 A 文章構成面・文法面・内容面の改善点がチェックでき、記述欄に具体的に書くことができる。 B 文章構成面・文法面・内容面の改善点がチェックできる。 ○相手に伝わるように分かりやすい表現を用いて書き直すことができる。 A 改善点を反映して自分の書いた英文を加除訂正し、質量ともにより良い文を書いている。 B 改善点を反映して自分の書いた英文を加除訂正し、相手に分かる表現で書いている。

VI 結果と考察

1 つかむ過程①で、イメージマップを使ったグループ活動を行うことは、生徒が与えられたテーマに対して自分の考えを引き出し、広げることに有効であったか

(1) 事前調査の結果から

自分の好きな季節と理由を表す文を書かせたところ、9割の生徒が I like ～. Because～. という形で答えた。自分の意見を表す文が I like ～. であり、理由を表す文が Because～. になる。具体的には I like summer. Because I like swimming. や I like winter. Because I can ski. など、理由を表す文は平均すると2文も書けていない。つまり、生徒の実態として「理由が浮かばない」、または「表面的な文しか書けない」ということが裏付けされた。

(2) 1回目のイメージマップ活動から

1時間目にイメージマップを使った活動を行うにあたり、事前調査で選んだ季節が同じになるよう生徒をグループ分けしておいた。なぜその季節を選んだかを自由に付箋紙に書かせたところ、図5にあるように生徒はグループの中で自分の考え

を活発に出し合えた。例えば、個人レベルでは夏が好きな理由として「泳ぐのが好きだから」「海に行けるから」という理由しか浮かばなかった生徒もイメージマップによるグループ活動では「祭りや伝統行事が盛んになるから」や「部活動に熱が入るから」などの多様な考えが出るようになった。

そして、同じような考えをまとめて分類・整理させたところ、レジャー、スポーツ、食べ物、伝統行事などと項目をつけることができ、自分たちの考えを整理することができた。図6に示したように生徒は、友達の見解や考えに触れ、それらを整理しながら多様な見方や考え方ができた。



図5 付箋紙に考えを出し合う様子

理由を表す文を書き出してください。	
1	夏は様々な行事があるからです(祭、大会、夏休み)
2	夏はおいしい食べ物食べられるから(おか、アイス、アイス)
3	夏は色々な所に行けるから(山、川、海)
理由を表す文を書き出してください。	
1	いろいろな植物が暑がる季節から(桜が好きだから)
2	過ごしやすい、あたたかな気候だから
3	生き物がたくさん起きはじめるから(虫、鳥、魚)、活動を始めるから

図6 日本語で書いた理由を表す文の例
注1：上段は夏を選んだグループ
下段は春を選んだグループ

また、授業の終わりに生徒が書いた振り返りシート1(資料4)の結果(図7)からはほとんどの生徒が「イメージマップは自分の考えを広げることに役立った」と答えていることが分かる。

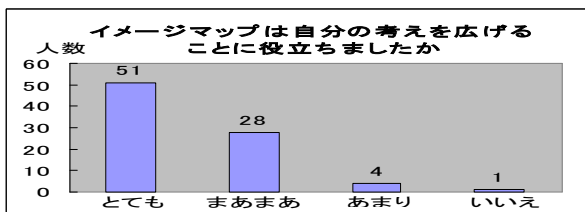


図7 振り返りシート1の結果

以上のことから、イメージマップを使ったグループ活動を行うことは、与えられたテーマに対して自分の考えを引き出し、広げることに有効であったと考えられる。

2 つかむ過程②で、英語の意見文の論理展開である三段構成例を示すことは、生徒がまとまりのある英文の構成を理解するのに有効であったか

(1) つなぎ言葉の重要性に気付く活動から

4名程度のグループに5枚のセンテンスカードを意味が通るように並べ替えさせたところ、すべてのグループが正しい順番に並べ替えることができた。ほぼ同じ内容の「主題文」と「結論文」については、文頭にSo(だから)がついている文を結論文であると判断している生徒の様子が見えた。また、生徒は文頭にあるFirst, Second, Thirdという単語を手がかりに並べ替えていた。つなぎ言葉を使うことで、一つ一つの文がまとまりのある文章を構成していることに気付くことができたと思われる。

最後に図8のように、意見文の1つの型として三段から成る文章構成について黒板にも掲示し、

クラス全体に共通理解を図らせることができた。

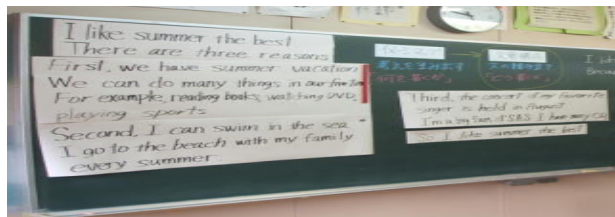


図8 共通理解を図るためのセンテンスカード

(2) 文章構成手順シートの有効性について

生徒は提示された4つのテーマから1つを選び、文章構成手順シートを参考にして英語で意見文を書いた。図9は「中学生にとって昼食は弁当と給食のどちらがよいと思いますか」というテーマで『給食がよい』という立場で書いた生徒の意見文である。

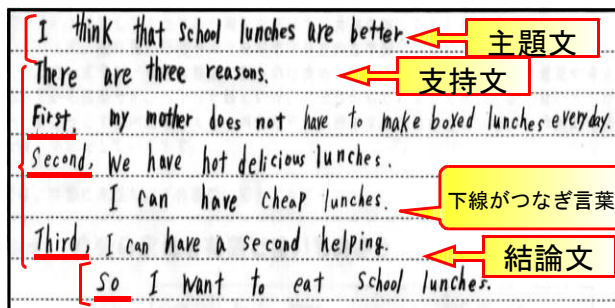
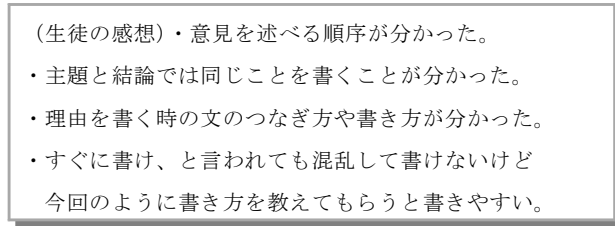


図9 ある生徒の意見文

このように文章構成手順シートを提示したことにより、まず自分の言いたいことを先に述べる「主題文」を書き、次に理由や根拠を述べる「支持文」、さらに主題文を繰り返して念を押す「結論文」の順番で書いており、三段構成を理解して書くことができた。また、「支持文」や「結論文」の文頭にはつなぎ言葉が使われており、このシートを活用したことでまとまりのある英文を書くことの理解につながったと思われる。そして、授業の終わりに生徒が書いた感想からもその有効性が伺える。



以上のことから、英語の意見文の論理展開である三段構成例を示すことは、生徒がまとまりのある英文の構成を理解するのに有効であったと考えられる。

3 追究する過程で、与えられたテーマについて日本語で書いた意見や考えを日本語変換シートを用いて吟味することは、生徒が既習の表現を使って英語に直すことに有効であったか

(1) 2回目のイメージマップ活動から

2回目のイメージマップ活動では、生徒はさらに活発に多くの意見を出し合った。

図10は「『小学生は携帯電話を持ってもよい』あなたはこの意見に賛成ですか、反対ですか」というテーマに対し、賛成の立場を取ったグループのものである。「連絡の取りやすさ」、「安全面」や「機能面」などの具体的な理由が出されている。反対の立場を取ったグループも同様に具体的に理由を書くことができた。生徒は、イメージマップを基に各自の理由や根拠を表す「支持文」を日本語で作成することができた。

親と連絡 が取れる	GPSが ある	危険な事 件が多い	習い事で 遅くなる
無料で音 楽聞ける	色々な機 能がある	学割で安 く買える	メール できる

図10 イメージマップで出された生徒の意見例

(2) 日本語変換シートの有効性について

図11は、このシートを活用する前後で「映画を見るなら家と映画館、どちらがよいか」というテーマに対し、『映画館がよい』という立場で生徒が日本語で書いた「支持文」である。

1	17日は最新の映画が見ることが出来ます。すると友達同士の会話のネタになる。
2	27日はとてもはくかのある映像が見れます。家では感じる事ができません。
3	37日はポップコーンもたべながら見ることが出来ます。とても、おいしいです。

下線は顕著な変更点

1	17日は、新しい映画をすぐ見ることが出来ます。その映画について友達と話せる。
2	27日は、迫力のアクションが見れます。だから、とても、あくくします。
3	37日は、そこで、ポップコーンを食べるのが好きです。それは、とても、おいしいです。

図11 日本語変換シート活用前後の文章

「会話のネタになる」という表現は、既習の知識では英語に直しづらいが、「～について友達と話せる」という表現に直せば、英語にしやすくなる。このように英語に直す前に日本語自体を吟味させ

たことで、既習の英語を用いて表現するという視点で書き直すことができた。他のテーマでも「栄養のバランスがよい」という文を「健康によい」にし、「お金がかからない」を「安い」という表現にし、英語にしやすい日本語に書き直すことができた。また、振り返りシート4（資料15）の結果（図12）からも「日本語変換シートは役に立った」と答えている生徒が多いことが確認できる。生徒はこのシートを効果的に活用したと思われる。

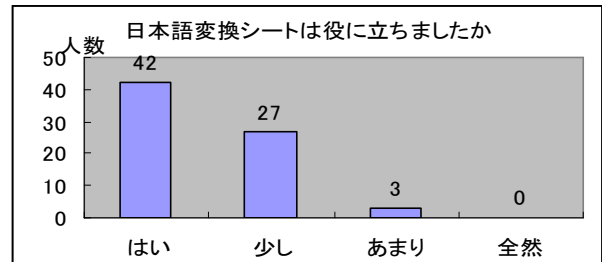


図12 振り返りシート4の結果

支援が必要な生徒に対しては提示したテーマの分野でよく使われる英単語や既習の英語表現をまとめたシート（資料13、14）を配付し、英語に直す参考にさせた。

以上のことから、与えられたテーマについて日本語で書いた意見や考えを日本語変換シートを用いて吟味することは、生徒が既習の英語表現で英語に直すことに有効であったと考えられる。

4 広げる過程で、英文チェックリストを用いることは、生徒が追究する過程で下書きをした英文を読み手の視点で書き直すことに有効であったか

(1) 英文チェックリストの有効性について

生徒はチェックリストに示された項目に従い、書いた英文の改善点をお互いに指摘することができた。具体的な生徒の指摘を文章構成面、文法面、内容面のそれぞれの項目について考察する。

「文章構成面」では、結論文の前に付けるつなぎ言葉を忘れていた生徒が1名いたが、三段構成による書き方はほとんどすべての生徒が理解できていた。改善点の記述欄には『支持文の中に can や like など同じ単語を多用している』と指摘してきた生徒が数名おり、書いた英文が単調にならないような助言ができていたことが分かる。

「文法面」では、単語のつづりや動詞の時制に関わる指摘が多かったが、内容のつながりから『適切な主語や代名詞を使うように』と記述している生徒もいた。単なる間違い探しではなく、相手に

伝えることを意識した助言ができたと言える。

「内容面」では、例えば、『映画館は迫力がある』と書いた英文に対して、『どんなところが迫力があるの』と指摘していた。指摘された生徒は『音が大きい』や『画面が大きい』といった英文を補足し、**支持文**を具体化することができた。

このようにチェックリストを用いて改善点を指摘させたことは、書き直す視点を明確にする上で有効であったと考える。

チェックリストを基に学び合いを行った生徒の感想は次の通りである。

(生徒の感想)・みんなから「おかしい」と思うところを教えてもらって、自分の苦手なところが分かった。
・友達同士でチェックし合っていると、けっこう間違いが見つかった。
・いろいろな考えが聞けておもしろかった。
・友達の文をチェックするのは難しかった。どこが間違っているのか見つけるのが大変だった。

ほとんどの生徒が、この活動を前向きにとらえていることからその有効性が伺える。

(2) 抽出生徒の変容から

3名の抽出生徒で、チェックリストを用いた学び合いの前と後で書いた英文を比較し、考察する。

① 抽出生徒A

抽出生徒Aは、チェックリストを基に3つ目の理由を書くことを指摘され、自分の意見や考えを表す文を1文増やすことができた。また、適切な単語に直し、正しい語順で書けるようになった。

I agree with this opinion.
(理由や根拠を表す文)
There are three reasons.
First, They are anytime communicate with Parents.
Second, We can get stranger information for safe.
Third,
(結論文)
So I agree with this opinion.

I agree with this opinion.
There are three reasons.
First, We can communicate with our Parents anytime
Second, We can get information about strangers for safety.
Third, We can communicate with many people anytime
So, I agree with this opinion.

3つめの支持文が書けた

図13 抽出生徒Aの書いた意見文

② 抽出生徒B

抽出生徒Bは、チェックリストに、理由や根拠をより具体的に書くように指摘され、支持文を増やすことができた。

I think that watching them in a movie house is better.
(理由や根拠を表す文)
There are three reasons.
First, there is powerful.
Second, we can eat many snacks.
Third, we can buy the goods.
(結論文)
So I think that watching them in a movie house is better.

I think that watching them in a movie house is better.
There are three reasons.
First, the movie house is powerful, because there is big sound and a big screen.
Second, we can eat many snacks. I like popcorn.
Third, we can buy the goods to remember the movie.
So I think that watching them in a movie house is better.

下線部がさらに具体化された支持文

図14 抽出生徒Bの書いた意見文

③ 抽出生徒C

抽出生徒Cは、チェックリストでは単語のつくりや代名詞の適切な使用について他の生徒から指摘され、内容の整合性については教師からの支援で、より完成度の高い文へと改善することができた。

I disagree with this opinion.
(理由や根拠を表す文)
There are three reasons.
First, when elementary school students have a cell phone, I think that they have many problems of cell phone.
Second, I think that elementary school students have cell phone too early.
Third, elementary school students can't study hard. For example, come mail and so on.
(結論文)
So I disagree with this opinion.

I disagree with this opinion. There are three reasons.
First, if elementary school students have a cell phone, I think that they will have many problems with a cell phone.
Second, I think that they would have a cell phone too early.
Third, they will not study so hard.
For example, play on email and
So I disagree with this opinion.

適切な代名詞や語彙を使い、内容が改善された支持文

図15 抽出生徒Cの書いた意見文

以上のことから、英文チェックリストを用いることは、生徒が追究する過程で下書きをした英文を読み手の視点で書き直すことに有効であったと考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- イメージマップは、自分の考えを引き出し、分類・整理することで思考を広げ、支持文の内容を深めることにつながった。最初は「書くことがない」と言っていた生徒も、最後は多くの意見を出していた。イメージマップ活動は、英語の学力に関わらずほぼ全員の生徒が意欲的に取り組むことができた。
- 生徒は、学習支援シートを基に英語の意見文の構成について理解し、既習の英語を使って表現できるようになり、書いた英語をより良い文へと書き直すことができた。本研究において、文章構成の1つの型を示したことで生徒の書く能力を向上させることができた。
- 授業実践の約1ヶ月後に新たなテーマ文（資料20）を提示し意見文を書かせたところ、図16のような結果が得られた。

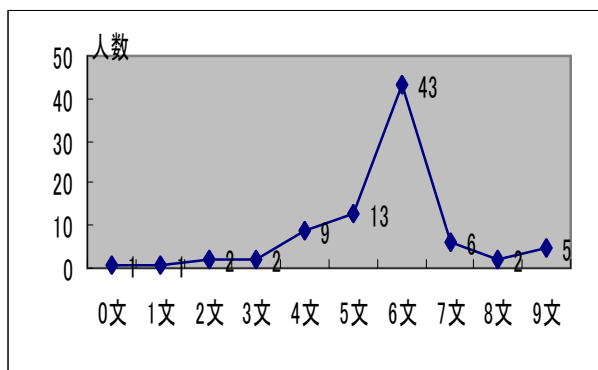


図16 事後調査の結果

82%の生徒が文章構成を理解して5文以上書くことができていた。内容面においても自分の主張を裏付ける理由や根拠を具体的に記述できた生徒が多かった。本研究の成果としてまとまりのある英文を書く力が身に付いたと考えられる。

2 課題

- チェックリストを用いた学び合いでは、英語の学力が高い生徒とそうではない生徒とでは、指摘できる内容に差が出てしまう。すべての生徒が同様に、書いた英文について改善点を指摘できるようにリストを改良していくことが課題である。

- 平成24年度より新学習指導要領によって英語の時数が各学年で週1時間増加する。言語材料は今までと同じであるため、今までより4領域を統合した言語活動を多く行うことができる。英語を聞くこと話すことの言語活動に加え、今回取り上げた意見文以外にも「書いて」表現する力を高める活動を授業に取り入れていく必要がある。

〈参考文献〉

- ・中学校学習指導要領 外国語編 文部科学省
- ・文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会配付資料4
- ・大井 恭子 著 『『英語モード』でライティング』 講談社
- ・田中 武夫、田中 知聡 著 「自己表現活動を取り入れた英語授業」 大修館書店